

2023年4月28日
競技本部

大会運営方法のゾーン審判とアスリートレーンセレクションについて

ゾーン審判について

全日本選手権ローイング大会において、これまでの大会同様「安全第一」で運営する。
以下、競漕規則の第53条(ゾーン審判法)で採択しない理由が明記されている。

第1項細則ゾーン審判法は、以下のような場合には基本的に採択しない。

- (1) 決勝レース
- (2) 漕手の技量が未熟でゾーン審判法では対応が困難と予想される場合
- (3) 出漕するクルーの間に大幅な艇差が生じることが予想される場合
- (4) 審判艇、救助艇の数が確保できない場合

出漕するクルー間に大差が生じるレース

蛇行による他艇との衝突回避

クルーの危険回避

等、レースにて安全を統括する審判艇をクルーから離してゾーンで行うという審判法は採択できない。

中央消波装置の設置

審判艇の艇数確保による審判艇の低速による回漕

懸念されている波を極力少なくする対策を図ることとしています。

以上の理由により、ゾーン審判は採用しない。

アスリートレーンセレクションについて

アスリートレーンセレクションは JARA には規定がないため、基本的には選手権大会では実施しない。

今大会のプログRESSIONシステムは、タイムでなく順位である。

World Rowing では、悪天候時の対応としてフェアネスコミッティー(公平委員会・JARA にはない、競漕委員会とは独立した中立の委員会)が採用を決定した場合に限り一部の大会で実施はしている。

レーンセレクションで選択した時の状況と実際にレースで漕ぐ時の状況は変わってしまうこと等の問題もあり、World Rowing でもアスリートレーンセレクションの導入についても疑問視されている。

以上の理由により、アスリートレーンセレクションは採用しない。